

2025年、穏やかに里山の作業が始まりました。森の下草刈り、田んぼの整備どちらも春を待つ大事な作業です。例年間かれる冬鳥の鳴き声が少ないのは寂しいのですが、陽だまりの道端には、いつも通り野草が咲いています。今、期待と不安を寄せているのは、ニホンアカガエルの産卵です。

冬の楽しみ バードウォッチング！



シジュウカラ



エナガ



メジロ



コゲラ



モズ

今年は冬鳥が来ていません！

ツグミ、シロハラ、カシラダカ・・・が見られません。観察会のたびに今年は冬鳥が少ないという声が聞かれます。「昨年秋は、どこも木の実が大豊作、十分にえさをとれたことから、わざわざ里へ下りる必要がなくなった」「地球温暖化で野鳥の数そのものが少なくなった」とか？確証は持てませんが鳥以外の生き物たちも減少していることを感じています。

冬の楽しみ 生きものさがし！



オオカマキリ



オオムラサキ



キタテハ



卵

ナガコガネグモ



幼虫

カブトムシ



成虫

ツチイナゴ

冬の楽しみ 春さがし！



シュラン・蕾



ノゲシ



ホトケノザ



ハハコグサ



カタバミ



オオイヌノフグリ

<季節メモ>

モグラ 地中に生きる技

モグラは、地中に生息するため身近にいる野生動物でありながら、その姿を目にする機会はほとんどない。地中の巣穴からトンネルを掘り、移動しながらミミズや昆虫を捕食するモグラは、前脚が土を掘ることに特化した構造で土を掻きやすく、掘った土を地上に排出しながら移動する。モグラ塚は周囲にモグラが生息している証である。眼は明るさを判断できるだけで、モノを見分けるための視力は備わっていないが、暗黒のトンネル内でも立体視できるといふ。それは、二オイ、嗅覚のなせる技、左右の鼻の穴で嗅いだ時の僅かなにおいの濃淡差を脳内で処理することで暗黒のトンネル内が立体的に見えるのだとか。

大食漢で12時間えさを食べないと死んでしまうことから今もせつせとエサ取りに励んでいるのかな？



写真・編集：晝間